第 3 回 分析調整会議 議事要旨

日時　2025 年 10 月 9 日（木）13:00～15:20
場所　原子力損害賠償・廃炉等支援機構 会議室 A（Web 会議システム併設）

1. 1F 廃炉における分析の課題の対応状況

東京電力 HD、JAEA、日本分析センターから、1F 廃炉における分析の課題の対応状況について説明した。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 安全性を確保して廃炉に向かう考え方として、廃炉活動を計画的に行い、発生場所や材質等の記録を取り、不確実性を考慮しながら安全性を高めていく。
- 分析計画で解体廃棄物の割合を増やすのは、燃料デブリ取り出しの規模拡大に伴い、建物はいくつか解体する必要があるからである。今後、ニーズに合わせて、計画を見直していく。
- 放射性物質分析・研究施設の試料調製技術の検討では、茨城地区の施設の分析項目の情報を得つつ連携しながら進めていく。また、導入する装置については、今後の分析目的の変化を見据え、ニーズに柔軟に対応する。
- サンプル分析の効率化においては、全体の平均の情報取得が主目的の場合と、分布情報取得が主目的の場合に応じて、考え方も検討してほしい。また、エンジニアリングの中の分析では、時間も大事なファクターになる。全 α 核種の評価の効率化、放射性物質分析・研究施設と東京電力の総合分析施設との役割分担等を進めてもらいたい。

2. 燃料デブリサンプルの分析と評価検討の状況

JAEA、NDF から、燃料デブリサンプルの分析と評価検討の状況について説明した。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリサンプルの分析結果は非常に重要なデータなので、分析法の改善、挙動の解釈を含め、しっかり分析を進めてほしい。また、放射光分析の結果についてはクロスチェックをお願いしたい。ウラン同位体比と放射能度の結果については検出限界を記載してほしい。
- 燃料デブリ分析の評価検討作業会での議論は、燃料デブリの分析計画の方向性を定めていく上で非常に重要である。一歩進んだ議論を展開して、より有意義な提案を出してほしい。

3. その他(全体を通して)

- 分析工程の一部自動化や迅速化に向けた研究開発を進めるべきである。分析施設も、対象試料の変化に柔軟に対応できるように設計の工夫や分析結果を迅速に試料採取計画にフィードバック可能なシステムの構築もできると良い。

以 上